

社会経済活力創出対策特別委員会記録

1 会議の日時	開会 午前 9時 57分 令和 7年2月27日 閉会 午前 10時 33分			
2 会議の場所	第4委員会室			
3 出席者	委員長 岩井 豊太郎 副委員長 野島 征夫 伊藤 正博 渡辺 嘉山 平岩 正光 田中 勝士 国枝 慎太郎 酒向 薫 布俣 正也 今井 政嘉 平野 祐也			
	執行部 別紙配席図のとおり			
4 事務局職員	係長 遠藤 俊輔 主査 脇若 知香子			

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 提言について	
2 その他	

6 議事録 (要点筆記)

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、社会経済活力創出対策特別委員会を開会する。

今日の委員会は、提言について協議するため開催したものである。

当委員会は、重点調査項目に基づき、テーマを絞り込んだうえで調査検討を行い、令和6年度までの2年間を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指してきた。

本日は、これまでの2年間の調査結果を踏まえ、提言としてとりまとめたい。なお、本会議における委員長報告は、提言の内容を抜粋して行う。

本日協議する提言案については、あらかじめ配付したとおりであるが、この提言案は令和6年3月に取りまとめた中間報告をもとに、その後の視察や参考人招致などの委員会での活動内容を追加して作成したものである。

提言案について、意見はないか。

○平野祐也委員

当委員会での調査において、日本の林業に適合した機械の開発が進まなければ、スマート林業は進まないのではないかと感じた。単純に海外の機械を導入するだけでは解決しないと思うがいかがか。

○小木曾森林經營課林業改革室長

欧州では様々な林業機械が開発されているが、日本の林業に適合していないものも多い。しかし、県が技術開発するとなると、時間も金額も非常にかかる。現在、国が中心となって日本の林業に適合した林業機械の開発が進められているため、県としては国に対して開発を加速するよう引き続き要望するとともに、開発された技術等を県内に普及していきたいと考えている。

○岩井豊太郎委員長

提言案の修正はよいか。

○平野祐也委員

修正は不要である。

○岩井豊太郎委員長

その他、御意見がないようであれば、案のとおり提言を決定したいが異議はないか。

(異議なし)

○岩井豊太郎委員長

異議がないようなので、案のとおりとする。

なお、今回の提言は、委員会の調査結果に基づくものであることから、本会議における委員長報告については、提言の内容を抜粋して行い、その文案については、正副委員長に一任いただきたいが、異議はないか。

(異議なし)

○岩井豊太郎委員長

異議がないようなので、そのようにする。

なお、本日審議した提言については、議会閉会後、知事に対して手交するので承知願う。

○岩井豊太郎委員長

議題は以上であるが、当委員会の2年間の活動を振り返り、委員から感想を一言ずつお願いしたい。

○平野祐也委員

普段なかなか行けない場所を視察し、県境を越えるだけで様々な参考となる取組があるということが勉強になった。

○布俣正也委員

株式会社ジェイテクトの視察におけるパワーアシストスーツの着用体験が印象的であったが、農業業界では60～70歳くらいの方が普通に働く中、アシストスーツを着用することに疑問を抱いた。

仙台市のスタートアップでは、最新のスピントロニクス半導体技術を駆使していた。本県でも西濃方面で開発が進むと聞いており、いよいよそういう時代になっていると感じた。

石巻市の石巻うまいもの株式会社では、石巻市における金華山ブランドが、本県と共通する点であり、共同ブランドとすることでコスト削減ができ、良い取組にできるという印象を持った。

○今井政嘉委員

福岡県や東北のスタートアップを見ると、ものづくり県である本県らしいスタートアップとはどういうものか、今の本県のレベルはどの程度に位置するのかということを改めて考えた。ものづくりの中核地方らしいスタートアップを、県に支援いただきたい。

○酒向薰委員

気づいた点として、一つは、伝承してきた産業が縮小してきている。陶磁器産業では全体の28%に後継者がいない状況。伝統産業は儲かる、儲からないだけの問題ではないと思う。

伝統には、残さないといけないものと変えなければいけないものがある。もう一つは、若者の流出について、東北大学を視察し、若者が一番高いレベルで学びたいのは当然だと感じた。

本県も学校の魅力向上に力を入れ、企業と連携し、若い人がやりたい仕事がある状況を生み出していくければ、若者の流出は止まらないと思う。

文化や産業が発展し、収益が上がることは良いことだが、反面、普段の生活には窮屈になり、人間らしさが損なわれていくこともある。人間としての生き方を持っておかないと、機械に乗っ取られてしまうという懸念を持っている。

○国枝慎太郎委員

観光の面で、本県には多くの外国人観光客が訪れているが、視察先の東北では本県の認知度があまりに低いということを知ることができた。国内でもまだまだ本県が掘り起こすべきエリアがあると感じた。また、観光人材の育成方法も学ぶところがあり、観光客の受入れと人材育成には課題があると改めて感じた。

半導体関係では、大野町にイビデンの新工場ができ、サプライヤー関係の企業を含め、色々な広がりが出ている。そういうものをしっかりとキャッチアップし誘致できれば、関係人口を含め、今後の産業を支えていく人材の確保につながり、教育にも反映していくと期待している。力を入れていただきたいと思う。

○田中勝士委員

東北観光推進機構との意見交換が一番印象に残っている。機構の理事長はJRのOBで、JRの中でも観光誘客を進めてこられた方であった。東北の各県が連携し東北全体に観光客を呼び込むということに主体的に取

り組まれている。話を伺うと、いかにインバウンドを呼び込むか、あるいは滞在型にするかという、本県とはほぼ同様の取組に東北なりの視点で取り組まれている。理事長に本県の観光振興施策へのアドバイスを求めたところ、一つは、本県の観光資源である関ヶ原も飛騨高山も白川郷も東北では認知されていないという現実があること、もう一つは、これから観光施策の中心は、今まで日が当たってこなかった地域資源を掘り起こし、そこに光を当てることであるとアドバイスをいただいた。日本中が観光施策に取り組んでいるが、ほぼ皆が同じ方向を向いているという現実を感じたことが新鮮であった。

○平岩正光委員

今の産業競争力が下がっているということは、GDP等の数字を見れば明らか。そのような中で、色々と視察させていただき、本県の可能性は高いと思った。ものづくりの原点となる技術力がある、広い郷土の中に様々な資源があるといった魅力を再発見し、発信しながら定着させることに可能性を感じている。

東北観光推進機構でお話を伺った際、古田菜穂子氏の名前も上がり、私は古田氏から以前、本県の観光戦略が、海外戦略のモデルとして全国に発信されていると伺った。東北の方々にどの程度認識されているかわからなかつたが、本県には外国の方がたくさん来ていることから、日本の原風景や技術に裏打ちされた地場産業や伝統産業、最新の産業に対する支援をしっかりと進めている成果かと思う。

○渡辺嘉山委員

東北大への視察で驚いたのは、知識を詰め込むだけでなく、自分たちで何かしようという岐阜大学起業部のような雰囲気があった。学生時代には、いろいろな知識やノウハウを学びながら自分で考える場が大事であると思う。本県でも、若い時にそういうことを学べる環境を提供できたらよいのではないか。

○伊藤正博委員

提言案において、「中小企業におけるDX導入の促進など、まだまだ課題が多い」とある。以前から指摘されており、これまででも産学官で取り組まれていると思うが、中小企業が多い本県にあっては産学官の連携がさらに必要だと思う。産業界には最先端の技術を扱っている企業もあり、いかにそうした企業が中小企業のDX推進に携わっていただくかが大きな課題だと思う。ものづくりを行う中小企業のDX推進、企業内人材の育成において、産業界の支援体制、人材活用が重要だと思う。

○野島征夫副委員長

若い頃、正眼寺の梶浦逸外氏から、「若者よ、日本一大泥棒になれ」という演題の話を聞いた。経済の活性化には、先人・先輩から知恵を盗んで成長することが必要ではないかと思っている。

東北視察では、観光分野において東北7県が協力していた。本県だけでなく、中部7県が連携しないと良い結果が生まれないのではないか。

半導体について、企画経済委員会の九州視察では、ロボットがロボットを作る現場も見させていただいた。東北大では、産学連携による最先端産業の発展を感じた。

本県の若者が愛知県へ流出しているという話がある中で、私見だが、木曽川に橋がないことが一番の原因だと考えている。川島大橋が災害で使用できなくなつたが、ここ数年で架かり、(仮称)新愛岐大橋、(仮称)新濃尾大橋を建設中だが、50年遅かったと思う。もっと早く橋ができていれば、本県に企業が定着し、産業が発展したのではないか。橋を有効活用し、愛知県から有力な企業を誘致されたい。

○岩井豊太郎委員長

一定の評価をいただき、感謝申し上げる。議員だけの勉強ではなく、最後は執行部に取り組んでいただく形にならないと意味がない。特別委員会の在り方については、執行部が受け止め、政策に反映し成果として現わしていただくことが究極の目標。部次長から、感想や御意見等を伺いたい。

○兼松商工労働部長

様々な御指摘、御示唆をいただき、感謝申し上げる。一部ではあるが、執行部から県内・県外視察へ同行させていただき、大変勉強になった。お話をいただいた中でも、スタートアップ、伝統産業の伝承、若者の流出、観光人材をはじめとする産業人材の育成、地域資源の掘り起こし、様々な問題と課題がある。これらを整理し、令和7年度予算として計上させていただいた。新知事と協議し、ひとまず新年度予算とさせていただいているが、それだけで問題を解決できるとは考えていない。今後とも、様々な現場の課題をお示しいただき、我々の政策に叱咤激励と御指導御鞭撻の程お願いしたい。

○田口商工労働部次長

私も現場を見ることが重要性を感じている。いくつか視察にご一緒させていただき、委員会の中で話を伺つたが、そのような中にヒントはたくさんある。現場の意見に応えられてこそ、県の政策だと思っている。

○郷商工労働部次長

色々な御意見、御示唆をいただき、感謝申し上げる。私も様々な企業の方とお会いし話を伺い、現場を見せていただく機会がある。委員の皆様もおっしゃったような様々な課題を解決するため、本県ならではの連携やモデル事業を創出したいと考えている。また、知事もトップランナーの育成、地域への展開を打ち出している中で、モデル事業をお示ししていきたい。中小企業の自動化、ロボット導入といったDX事例の面的な普及や、地域のものづくり企業とスタートアップとの協業による新しいサービスや製品を生み出すなどの挑戦を後押しし、その成果を皆さんに知っていただく機会を作っていきたいと思う。

○岩井豊太郎委員長

以上をもって、本日の委員会を閉会する。

社会経済活力創出対策特別委員会 配席図

令和7年2月27日

第4委員会室

